

やまなしの

ひとと山



八ヶ岳へ、憧れのやまびとに会いに行く 北杜市

山の猛者とは、こういう人のことを指すのだろう。権現岳(八ヶ岳の峰の1つで標高2,715m)を仰ぐ登山道に立つ姿は、本当にかっこいい。竹内敬一さんは、八ヶ岳山岳ガイド協会会長、山梨県北杜警察署山岳救助隊長、そして南八ヶ岳の山小屋・青年小屋の主の顔を持ち、エベレストやアマダブラムの登頂も果たした日本を代表する山のスペシャリストである。「東京での会社勤めを辞め、働き始めた青年小屋で『おらあの後を継いで、この山を守ってくれんか。お前しかいない』と当時の小屋主に認められて跡を継ぎ、今に至っています」と微笑む。「八ヶ岳は富士山よりずっと古い山。広大な裾野には縄文の遺跡が数多く見られますし、中世では信仰の山でした。自然は美しいとか厳しいとか形容するけど、それは人間の都合。自然は地球の息吹そのもので、人間なんか関係ない。そうした荒ぶる自然を、日本人は受け入れて生きてきた。それが日本人の自然観だと思うのです」。厳しい山に挑み、間近に人の生死を見てきたからこそ、言葉一つひとつに

重みを感じる。竹内さんは、地元の小学生に八ヶ岳の自然や歴史、体験を通して「生きる、ということ」を伝えているそうだ。「山の中では、人間って小さくて弱いんだ、だから友達と助け合わなければいけないんだ、と気づくのです。3年生から縄跳びで基礎体力づくりをして、八ヶ岳の自然や歴史について学びます。そして4年生から八ヶ岳の編笠山を登ります。みんな山頂までちゃんと登れて、先生の荷物を持ってあげたり。逆に助けちゃうくらいになるんだよ」と心から嬉しそうに話す。「山梨の人はね、やわらかい。大らかなんです。毎日山を見てるからかな?」と朗らかに笑った。



登山家 竹内 敬一
国際山岳ガイド、日本山岳ガイド協会監事
山梨県北杜警察署山岳救助隊長
八ヶ岳山岳ガイド協会会長
青年小屋・権現小屋 小屋主



山の国・山梨を代表する名峰・八ヶ岳は、標高2,899mの主峰赤岳を最高峰とし、標高2,500m前後の20以上の峰が連なる秀麗な山塊である。北杜市の観音平駐車場から編笠山、青年小屋を経由して権現岳に至る登山コースは、富士山から南アルプスを望む雄大な景色を楽しめる人気のコースだ。「9月の終わりはタケカンバの黄、ナナカマドの赤が鮮やかでとてもきれいなんですよ」と竹内敬一さんと妻の直子さん。